

✠047 メディア人ダレイオス→キュアクサレスⅡ

キュアクサレスⅡ（別称：メディア人ダレイオス、フラオルテスの子のキュアクサレスⅡ〈参考1〉とは異なる人物）は、メディア最後の王とされている。その統治はギリシアの史家クセノフォン（クセノポンとも。BC427?～BC355?。古代ギリシアの軍人、哲学者、著述家、アテナイの騎士階級の出身。）が記している。この人物をダニエル書6：1（聖書では、6：1のみに出てくる）の「メディア人ダレイオス」と同一人物と見なす説がある。キュアクサレスⅡはヘロドトス（BC485頃～BC420頃。古代ギリシアの歴史家で、最初の歴史書『歴史』により「歴史の父」とも呼ばれる。）やクテシアス（BC5世紀に活躍した古代ギリシアの医師、歴史家）の史書には記されておらず、キュアクサレスⅡが実際に存在したかどうかについては議論がある。クセノフォンはメディアとペルシアの二王国が平和的にBC537頃、統一されたと記しているが、ヘロドトスによればメディアはBC559頃、ペルシアの反逆により征服されたとされており、メディア人の王キュアクサレスⅡが存在したかどうかはこの問題にも重要な鍵となっている（※1）。

※1：キュアクサレスⅡはクセノフォンの『キュロスの教育』の中で登場するが、ヘロドトスの『歴史』の中では全く登場しない。ヘロドトスは、メディアの王アステュアゲス（メディア王国最後の王で、先代のメディア王キュアクサレスⅡの息子。在位期間はヘロドトスの歴史書『歴史』によればBC585からBC550である。）には息子がなく、キュロス大王（キュロスⅡは、アケメネス朝ペルシアの初代国王。キュロスは古代エジプトを除く全ての古代オリエン特諸国を統一して空前の大帝国を建設した。現代のイラン人は、キュロスをイランの建国者と称えている。）がメディアとペルシアの両王国の後継者であったと述べる。

現代の史学者の多数派はヘロドトスを支持しており、キュアクサレスⅡは「創作にすぎない」している。

【ポイント】

- ・ギリシアの史家クセノフォンによれば、キュアクサレスⅡ（メディア人ダレイオス）は、メディア最後の王とされている。
- ・聖書では、「メディア人ダレイオス」の表記は、「ダニエル書6：1」に出てくるのみで、他の箇所には出てこない。
- ・古代ギリシアの歴史家であるヘロドトスは、メディア王国最後の王アステュアゲスには息子がなく、キュロス大王がメディアとペルシアの両王国の後継者であったと述べている。
- ・現代の史学者の多数派はヘロドトスを支持しており、キュアクサレスⅡ（メディア人ダレイオス）は、「創作にすぎない」としている。

【参考】1：フラオルテスの子のキュアクサレスⅡ

メディア王国の王。在位：BC625年～BC584。先代の王フラオルテス（BC665頃～633年。メディア王国の第2代の王でメディアを統合したデイオケスの息子）の息子。アッシリア帝国を滅ぼし、スキタイ人による支配からメディアを解放した。